

## コロナ禍への対応(Ⅱ) 学校再開されて

政府から4月7日に出されていた緊急事態宣言が、本県では5月25日に解除されました。5月16日に39県で緊急事態宣言が解除されるなか、本県は引続き延長されていました。その間、岩手県、青森県、鳥取県を始め39県は次々と学校を再開し、段階的な再開をしながら通常登校に移行していきました。本県の県立学校に関しては、3月2日より約3ヶ月に渡って休校となっていました。6月1日より再開となりました。さらに、神奈川県教育委員会は、県立高校と中等教育学校に対して通常登校の開始日を7月13日に前倒して通常登校になりました。

本校では、新型コロナウイルス感染防止のための可能な限り必要な措置を取って学校を再開しています。現在、通常登校になりましたが、学校はビフォー・コロナという状況には至っていません。現在、第二波の到来といわれるような状況であり、ウィズ・コロナのなかで通常登校を行っている状況です。本校で、今行われている新型コロナウイルス感染防止の対策には、次のようなものがあります。

- 通勤時間のラッシュを避け、授業時間を1コマ45分とし、1日6時間、7時間
- 昼食時、下校時のマスクを外しての会話を避けるよう注意喚起の放送
- 校長通信「清陵」での新型コロナウイルス感染防止に関する記事
- 授業動画配信や学習アプリの活用
- 反転授業の推奨(自宅で予習、授業で復習)
- 土曜講座、夏期講習の実施、夏休みの短縮
- 教室、トイレ等への消毒液を設置
- トイレ消毒・清掃の業者委託(7月から)
- トイレの水道蛇口の自動化(8月に工事予定)
- 修学旅行の延期

学校再開後の一番の課題は何かと考えています。それは生徒たちが、学校に行くことが楽しいと思えるか、どうかだと思っています。学校が再開されましたが、自宅での課題や、土曜講座の開講、夏休みの短縮など、学習の遅れを取り戻すことに力点が置かれています。確かに、3ヶ月にもおよぶ休校期間があり、生徒の進路を考えれば学習の遅れを取り戻すための対応を考え、前面に出さざるを得ないと思います。しかしながら校長は、生徒が学習、部活動や委員会活動、学校行事、友との触れ合い等をとおして、学校生活を楽しいと思えることが、一番の重要な課題だと思っています。そのための施策を模索している最中です。今回の新型コロナウイルスの感染拡大において全日制や定時制などの通学型学校は、

生徒を一カ所に集め教育していくのですから、典型的な「3密」にならざるを得ないので、ウィズ・コロナやアフター・コロナのなかで、通学型学校は休校中でも教育活動を維持できる体制を構築していく必要があります。

現在、クラスターによる感染者が増えています。クラスターとは感染者の集団を意味します。1人の感染者から集団の他の人に感染が広がり、その広がった集団をクラスターと呼びます。クラスターの発生しやすい条件は3密であり、フィジカルディスタンスが取れず、接近して会話や発声となされる状況などといわれています。病院、施設、劇場、ライブハウス、カラオケ、職場、学校、家庭などでクラスターによる感染という報道がなされますが、職場や学校では、懇親会や食事、登下校でクラスターの発生が起っています。現に、7月22日に発表された神奈川県内の感染者数は68人(緊急事態宣言後、一日の感染者数としては最多)でした。そのうち4人が同じ大学のサークルメンバーであり、このサークルと交流があり会食していた人も感染していました。県内では児童・生徒のみならず園児にまで感染者が出ています。

本校では昼食時や下校時に「マスクを外して会話」することのないように校内放送を流していますが、マスクを外しての会話は避けてください。おかずやお菓子、飲み物のシェアは止めてください。

さらに、家庭内感染にも注意してください。家族の誰かに感染の疑いが出た場合、一緒に生活をしている家族にうつしてしまう可能性があります。また、家族は濃厚接触者としてPCR検査を受けることになり、検査結果が出るまで外出することを避けなければなりません。家庭内感染を防ぐためのポイントを記しておきます。

- ・風邪・下痢症状がある人は、別室で寝食をする。⇒共用スペースは必要最小限！
- ・看病する人は、なるべく1人に限定する。
- ・家族全員、家庭内でマスクを着用する。
- ・小まめにうがい、手洗い、消毒をよく行う。
- ・室内の換気に心がける。
- ・タオル、食器、箸、スプーン、パソコンなどを共用しない。
- ・掃除の際はドアノブ、電気スイッチは消毒液等を用いて拭き掃除する。
- ・洗濯物は熱湯や塩素系消毒液に浸漬する。ただし、色落ちや縮みに注意する。
- ・洗濯をする人は、必ずマスクと手袋を着用する。
- ・ゴミは密閉して捨てる。

最近の感染者数を見ても若年層が増えてきています。第一波の時は、若年層は比較的安安全といわれていました。しかしながら、現在の状況では全年代層に感染者が広がっており、決して若年層が安全とはいえません。また、若年層は重症化しにくいと言われますが、高血圧、糖尿病など持病のある人は重症化しやすいと言われていています。また、重症化しなくても、倦怠感や高血圧、頭痛、浮腫み、頭髪が抜けるなどの後遺症に悩まされる若者も出てきています。ヨーロッパでは10代、20代の持病のない若者が死亡しているケースは複数あります。日本においても持病はありましたが28歳の大相撲力士が5月に亡くなっています。皆さん、3密を避け、不要不急の外出は避けましょう！